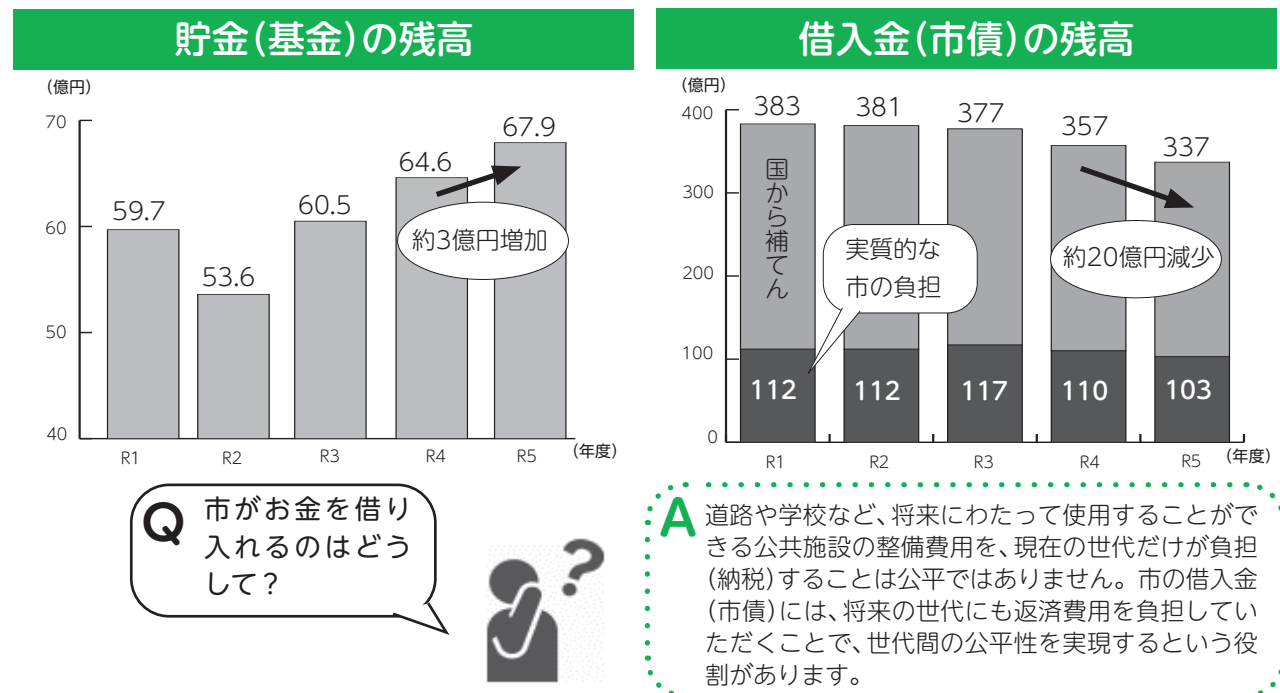


貯金と借入金

貯金(基金)の残高は、まちの活性化や子育て支援など特定の事業に充当するために積み立てていた寄附金など4.4億円を取り崩す一方で、前年度からの繰越金やふるさと納税寄附金など7.7億円を積み立てたことにより、令和4年度から3.3億円増加して67.9億円となりました。

また、借入金(市債)の残高は、新たな借入金よりも過去の借入金の返済が多くなったことから、令和4年度よりも約20億円減少して337億円となりました。このうち、後年度に国から補てんされる分を除いた実質的な市の負担額は103億円です。



財政健全化の取組

持続可能な財政基盤をつくり、健全財政を将来世代につないでいけるよう、市は「財政健全化計画」を策定し、5年間(令和4～8年度)の対象期間を定め、収入の確保や支出の見直しに取り組んでいます。令和5年度は、約4.1億円の取組効果が生まれました。

計画の基本方針	令和5年度の取組効果額		
	実績(A)	計画(B)	差引(A-B)
収入の確保	1億1,755万円	3億 340万円	△1億8,585万円
支出の見直し	2億9,080万円	3億 228万円	△1,148万円
計	4億 835万円	6億 568万円	△1億9,733万円

	主な取組内容	取組効果額
収入の確保	ふるさと納税(寄附金)の推進	9,303万円
	市税の徴収率の向上	900万円
支出の見直し	一般会計から国民健康保険特別会計への赤字補てんのための繰出金の廃止	1億9,449万円
	運転免許証自主返納者への公共交通利用助成券の交付の縮小	1,628万円

今後の取組の方向性

令和2年度以降、市の貯金(基金)の残高は増加していますが、これはコロナ禍の影響と、その後の国の税収の増加による交付税の増額などを受けた収入の増加によるところが大きな要因であり、今後もこの傾向が継続するか否かは不透明な状況です。今後、人口減少に伴い市税などの収入の増加が期待できない一方で、さらなる物価高騰や人件費の上昇のほか、高齢化の進展による社会保障費や老朽化した公共施設の改修費用などにより、支出が収入を大きく上回ることが見込まれます。このため、今後の各年度の決算状況や社会経済情勢、国・県の動向などを十分に見定めた上で、財政健全化に向けた取組を継続していきます。

令和5年度

決算見込の概要

決算とは、1年間の収入(歳入)と支出(歳出)の結果をまとめたものです。

令和5年度の一般会計の収入と支出の差額は5億2,245万円で、令和6年度予算へ繰り越すべき額8,141万円を差し引いた実質的な収支は4億4,104万円の黒字となりました。

なお、特別会計を含む決算見込は次のとおりです。

問 (市)財政課 財政係
(市)経営管理課 経営管理係

収入と支出

		収入額 (A)	支出額 (B)	差引 (A)-(B)
一 般 会 計		360億9,225万円	355億6,980万円	5億2,245万円
特別会計	国 民 健 康 保 険	88億 844万円	85億9,881万円	2億 963万円
	介 護 保 険	75億8,617万円	75億6,220万円	2,397万円
	後 期 高 齢 者 医 療 事 業	15億5,707万円	15億2,309万円	3,398万円
	学 校 給 食 事 業	2億8,937万円	2億8,936万円	1万円

◎国民健康保険特別会計の決算見込の詳細は、13ページを確認してください。

◎企業会計(水道・下水道)の決算については、広報みき11月号でお知らせします。

令和5年度もさまざまな事業に取り組みました
＼その中から**主な事業**を紹介します／

まちの活性化や教育環境の充実、健康増進や三木ブランド向上への取組

- ▶山田錦の郷の「道の駅」化に向けた駐車場の整備、山田錦の館の改修などを実施(令和6年度も継続)
- ▶未来を創る学力を育成する「三木モデル」事業や小中一貫教育を推進
- ▶高齢者のフレイル対策強化などの「みっきい☆シニア健康サポート事業」を実施
- ▶「みっきい健康アプリ」の健康ポイント付与対象事業に市内ゴルフ大会への参加などを追加
- ▶「みっきい☆健康アプリ」
- ▶出産・子育て応援給付金の支給や伴走型の相談支援で妊娠から出産・子育てを応援

物価高騰への対応

- ▶低所得者と子育て世帯へ給付金を支給
- ▶農業生産者などに生産コスト低減を図るための機械導入を支援
- ▶三木市商店街連合会プレミアム付き商品券事業を支援
- ▶小・中・特別支援学校の2・3学期の給食費を無償化